



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.4

結果報告

-
- 回答期限 : 2021年2月1日(月)～10日(水)
- 回答対象 : 各地の「こども食堂の地域ネットワーク」および「こども食堂ネットワーク」とつながるこども食堂(むすびえの「地域ネットワークメーリングリスト」と「こども食堂ネットワークのメーリングリスト」から回答を呼びかけ)
- 回答数 : 33都道府県 343件
- 実施 : NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、こども食堂ネットワーク
-

第1部

こども食堂の現状&困りごとアンケート vol.4

- ・ こども食堂開始年
- ・ こども食堂の運営母体
- ・ 2021年2月時点のこども食堂の開催状況、開催していない理由
- ・ 一堂に会してのこども食堂の再開時期
- ・ 活動に関する困りごと

第2部

防災に関するアンケート調査

- ・ 防災への関心
- ・ 防災士の有無、人数

第3部

あなたにとってこども食堂とは？(テキストマイニング)

第4部

活動に関する困りごと(自由記述)

過去の「こども食堂の現状&困りごとアンケート」調査結果は、以下にまとめています。

第1回 4月13日～17日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/04/musubie_Q_sheet_0423.pdf

第2回 6月19日～25日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/07/musubie_Q2_sheet_0713.pdf

第3回 9月20日～28日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/10/musubie_Q3_sheet_1020_02.pdf

むすびえ理事長・湯浅よりアンケート結果総括

再び、緊急事態宣言下での調査となりました。今回は、発令地域が限定されていた上、発令地域においても学校等は開かれていました。コロナ禍1年間の症例の蓄積の中で、子どもは「うつりにくい、うつしにくい、重症化しにくい」ことがわかってきたからです。

しかし、今回のアンケート結果は、その違いがこども食堂には表れていないことを明らかにしました。一堂に会する居場所を開けているのは11.9%と昨年4月とほぼ変わらず、再開時期の「予定が立たない」と答えたこども食堂は、昨年9月よりも増え、過半数を超えました。最大の理由は、相変わらず「感染防止の対応が難しい」でした。

ワクチン接種が始まりましたが、重症化防止効果は認められているものの、感染予防効果についてははっきりせず、マスク着用や三密回避の奨励等の感染防止対応は、今後も当分は必要であり続けると予想します。感染防止の対応が難しく、再開予定が立たないという現状を変えられないと、こども食堂の全国的な休止状態が長期化するおそれがあります。それは、子どもたちから居場所が奪われ続ける状態の長期化を意味します。

コロナは怖い。同時に、子どもたちから居場所が奪われ続ける状態が続くことも、とても怖い。「命」のため、「育ち」のために、私たちはなんとか感染防止と居場所開催の両立を模索したいと考えています。

「子どもたちの居場所を守ろう！」を合言葉に、多くの人たちで知恵を出し合い、この困難な状況を乗り越えていければと願っています。

むすびえ理事長
湯浅 誠



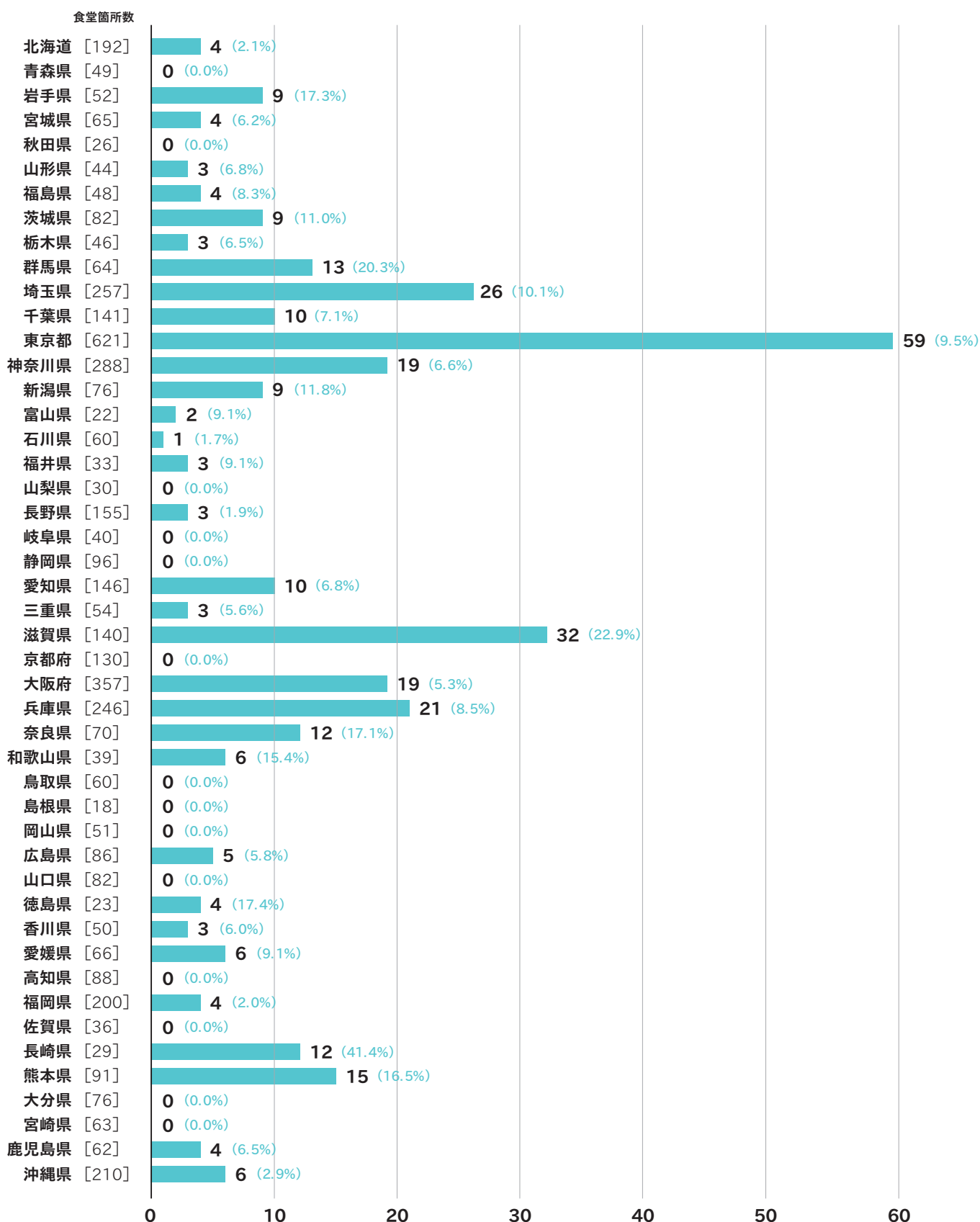
第1部

こども食堂の現状 &
困りごとアンケート

vol.4

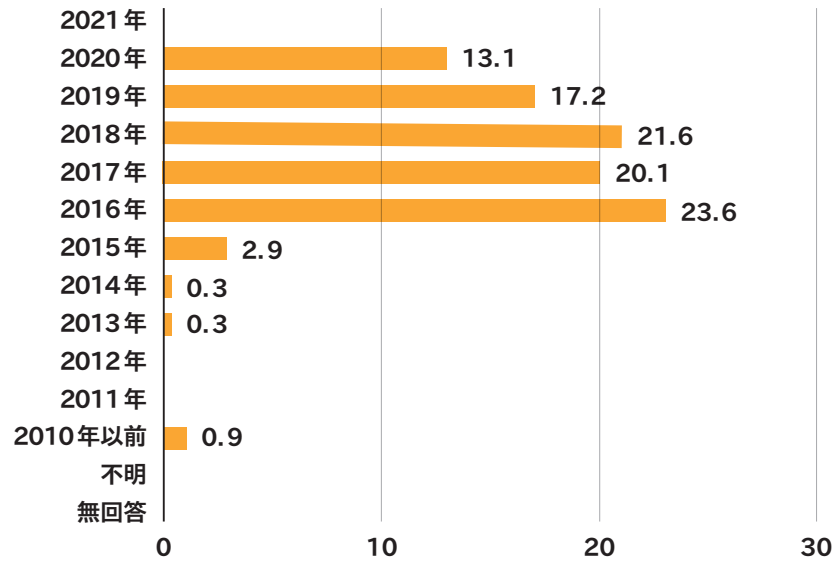
都道府県別の回答した子ども食堂の数及び回答率

単位: 件 回答数 = 343



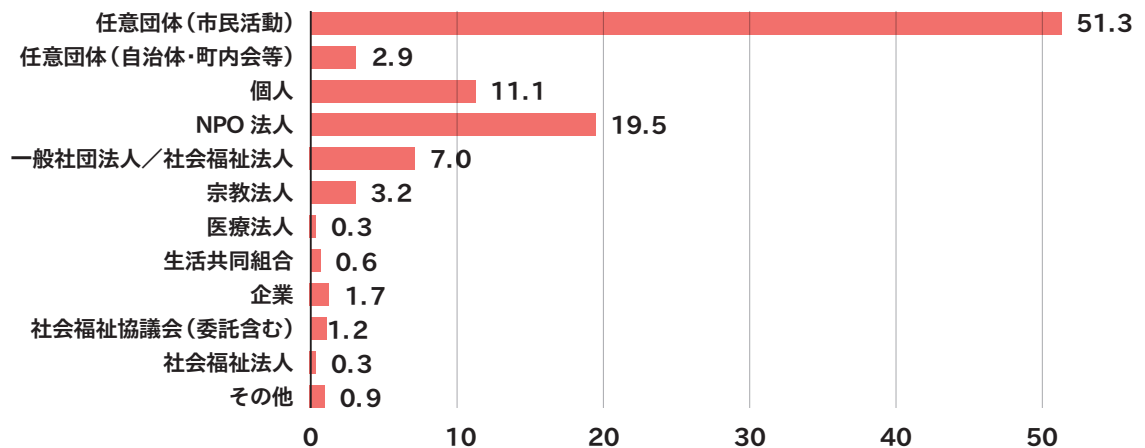
1 開始した年について

回答数: 343件 単位: %



2 運営主体について

回答数: 343件 単位: %



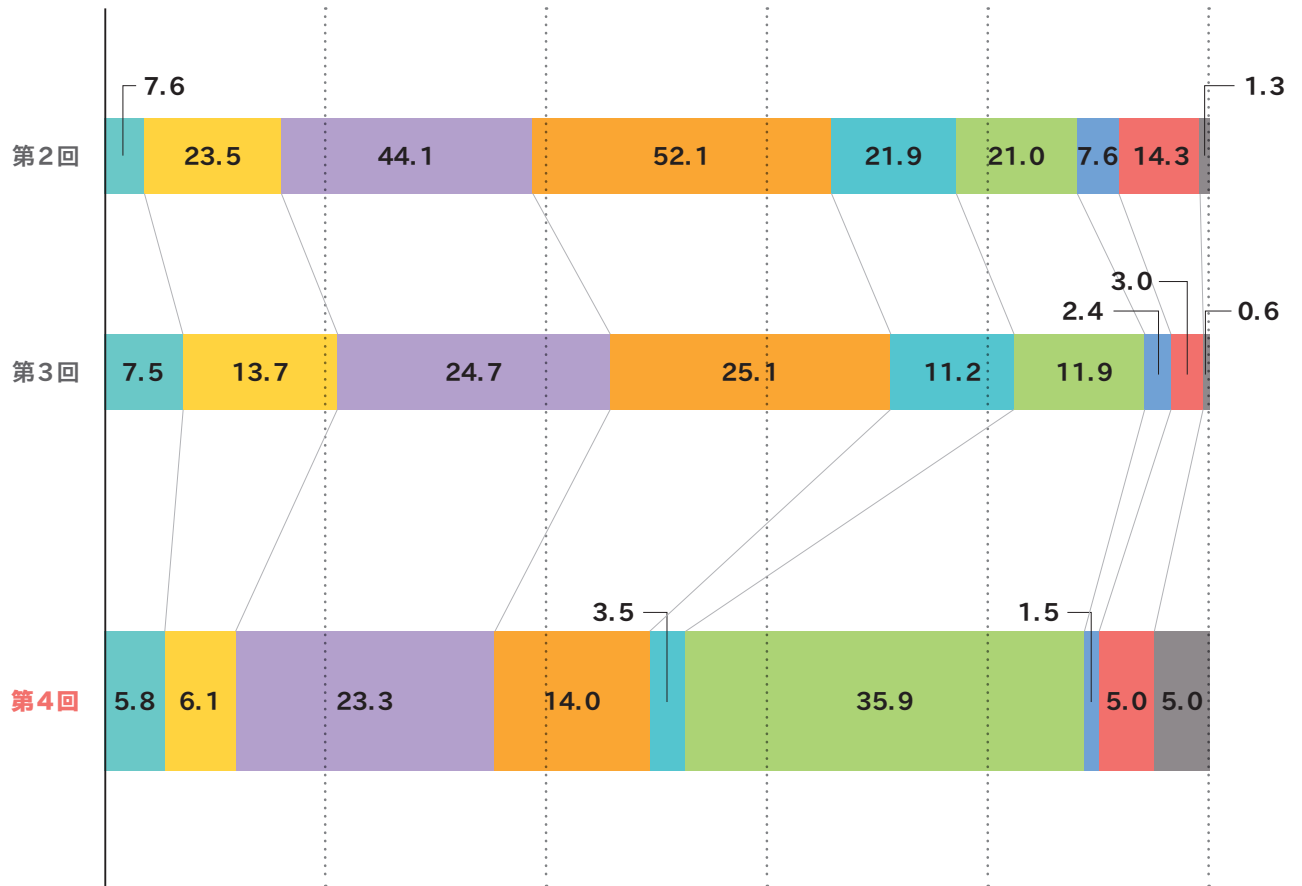
その他: 労働者協同組合、社会福祉法人と市民の共催、社会福祉協議会、NPO、生協の三者協働

アンケートからわかること

- ・ 今回の回答者においては、過去3年以内 (2018年以降) に開始した団体が50.9%と全体の約半数となっている。
- ・ 運営団体については任意団体 (市民活動) が51.3%と最も多く、次いでNPO 法人の19.5%。任意団体、及び個人合わせて65.3%と半数以上である。

3 こども食堂開催状況

回答数: 343件 単位:%



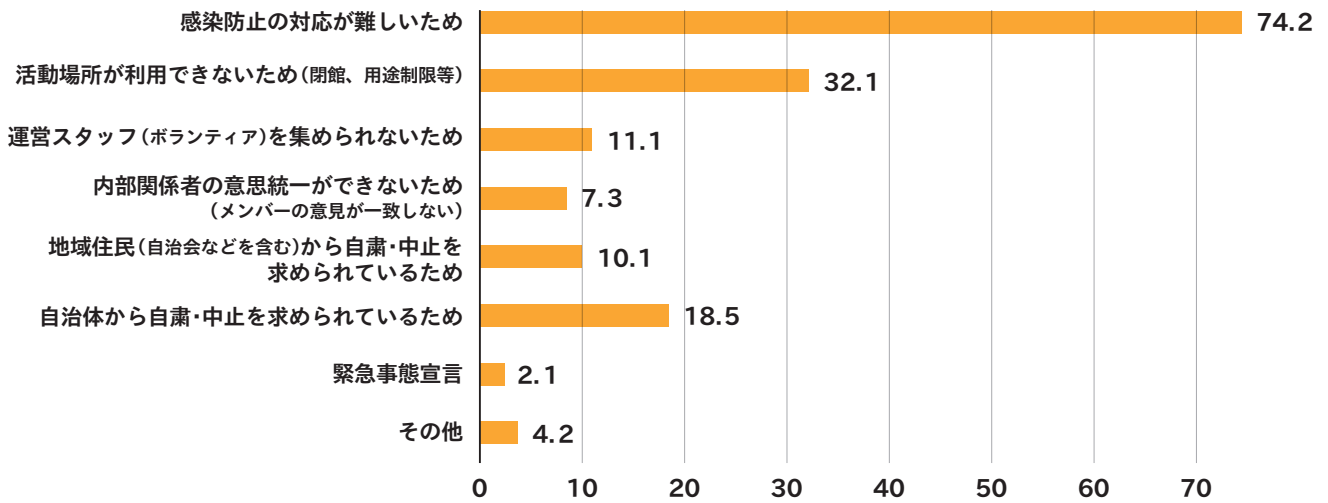
- こども食堂(これまでと異なり人数制限、屋外開催などをする)
- こども食堂(これまで通りみんなで一緒に食べる)
- お弁当の配布(取りに来てもらう)
- 食材等の配布(取りに来てもらう=パントリー)
- 食材やお弁当等を宅配(自宅へお届け)
- 複数活動(こども食堂+食材配布、お弁当配布+食材配布など)
- その他の活動を実施
- 活動の休止・延期(再開予定時期あり)
- 活動の休止・延期(再開予定はたっていない)

参考:第2回アンケート結果 6月現在、708件 ※複数回答あり

参考:第3回アンケート結果 9月現在、708件 ※複数回答あり

4 -1 こども食堂の非開催理由（※複数回答）

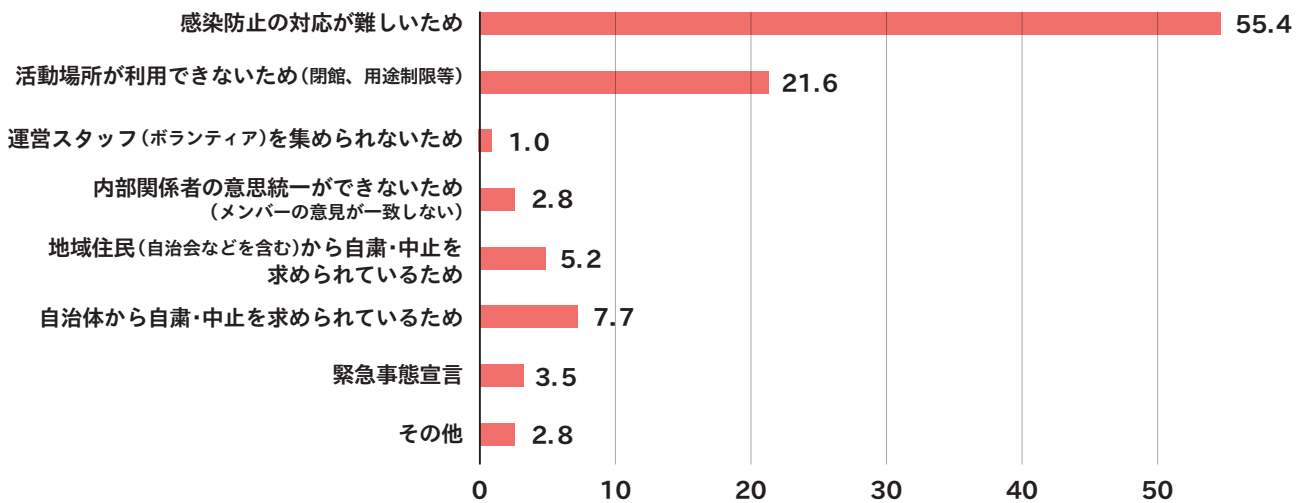
回答数: 287件 単位: %



※その他は、「みんなでごはんを食べることだけではない支援が必要になってきているから」「フードパントリーの方が求められている」「子どもが以前に比べ来なくなった」「テイクアウトなどで対応したが、利用者が警戒してあまり需要がなかった」等

4 -2 こども食堂の非開催理由（最も）

回答数: 287件 単位: %



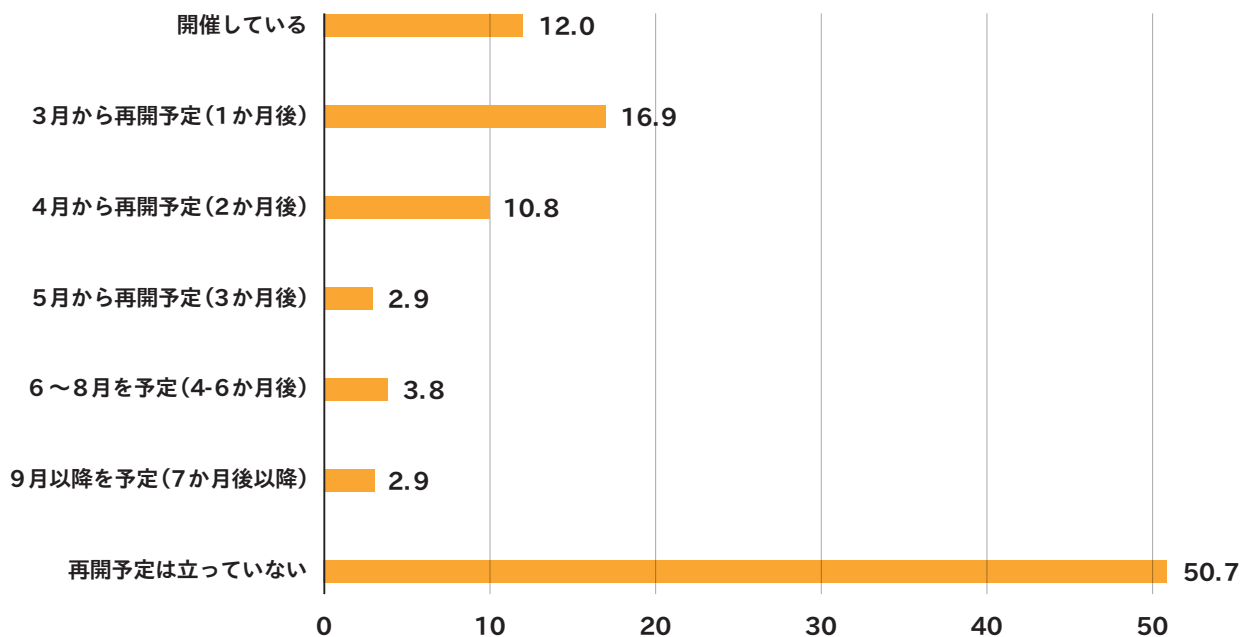
アンケートからわかること

・こども食堂を開催していると回答した人が11.9%と9月に実施したアンケート結果と比べ9.3%減少している一方で、複数活動を実施している団体が、35.9%と9月に実施したアンケート結果と比べ24%増加している。

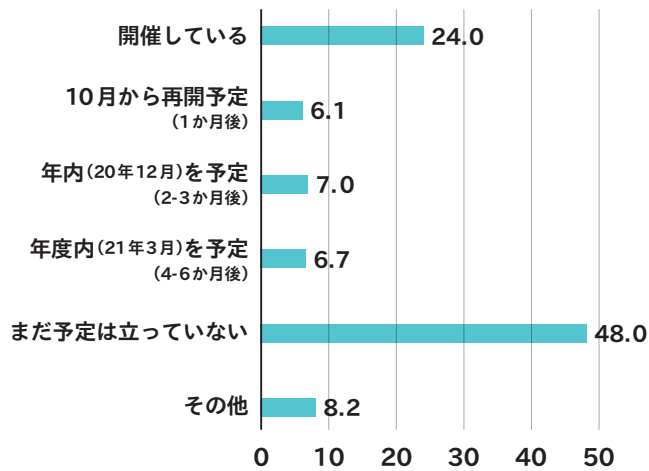
・こども食堂の非開催理由の回答として感染防止の対応が難しいことを理由にする人が74.2%。一番の理由としても感染防止対策が難しいという理由が55.4%と過半数を超え最も多い結果となった。

4 居場所としての子ども食堂の再開時期

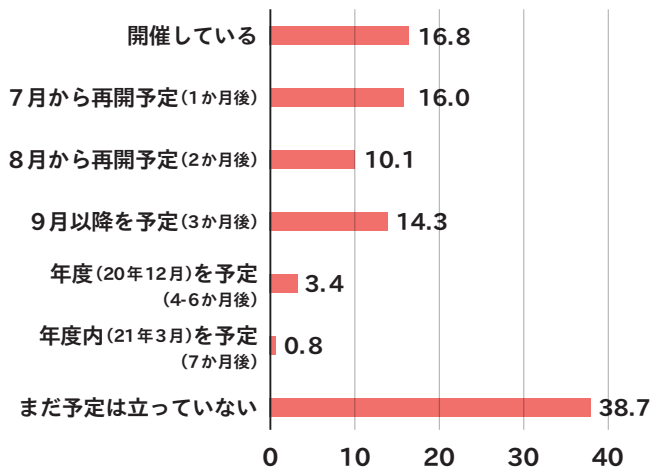
回答数: 343件 単位: %



■ 第3回アンケート結果 9月現在 342件



■ 第2回アンケート結果 6月現在 238件

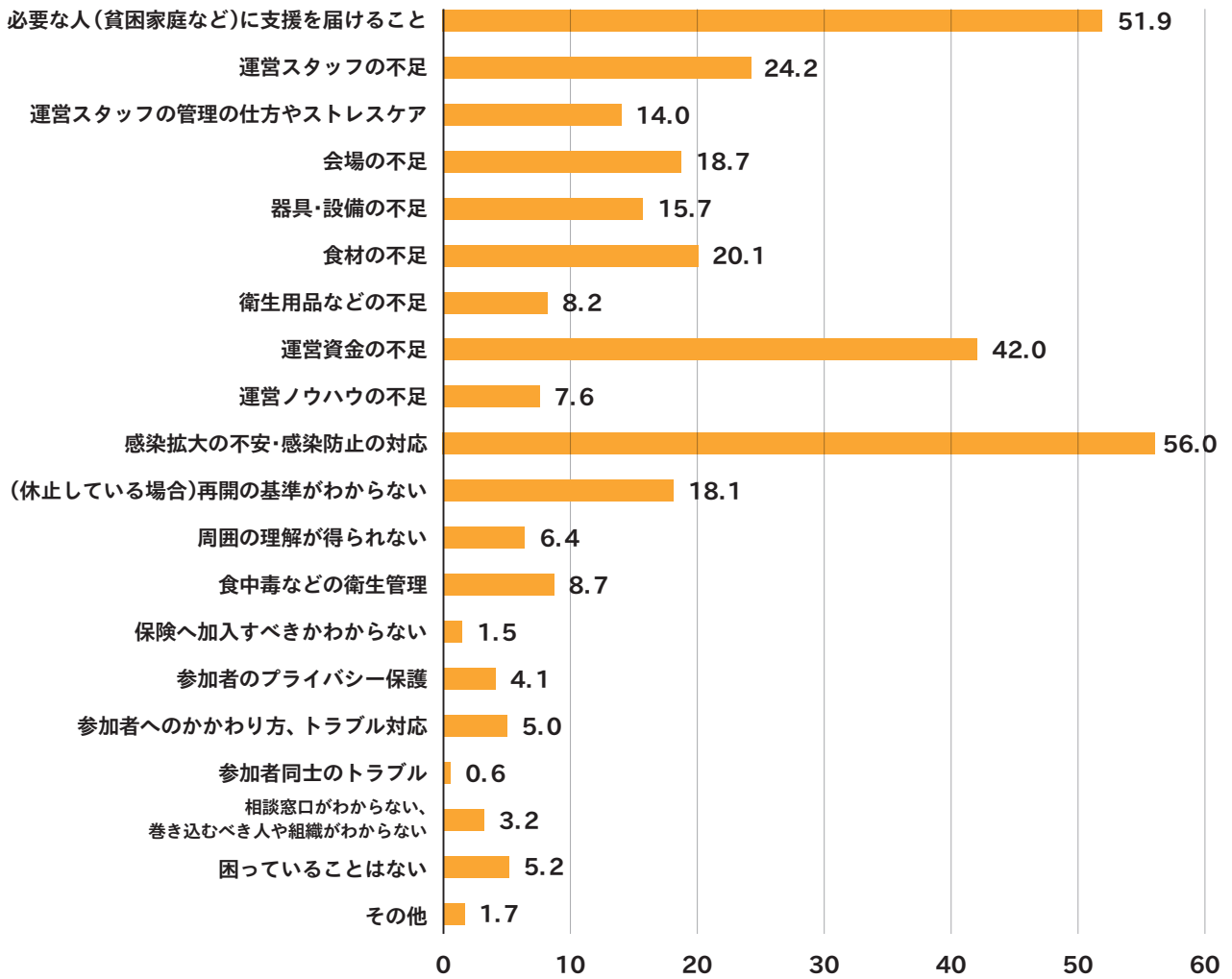


アンケートからわかること

- ・現在開催、1,2カ月後に開催を予定している人たちを合わせると、39.7%と4割り近くになる一方で、50.7%と約半数が再開予定が立っていない状況
- ・2度目の緊急事態宣言もあってか、まだ予定は立っていないと回答する割合が6月、9月に実施した直近2回の過去アンケート結果の中で最も多い結果となった。

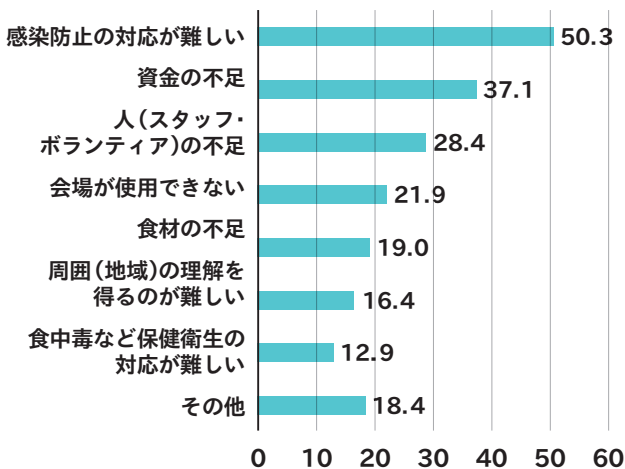
5 こども食堂での困りごと(※複数回答)

回答数: 343件 単位: %

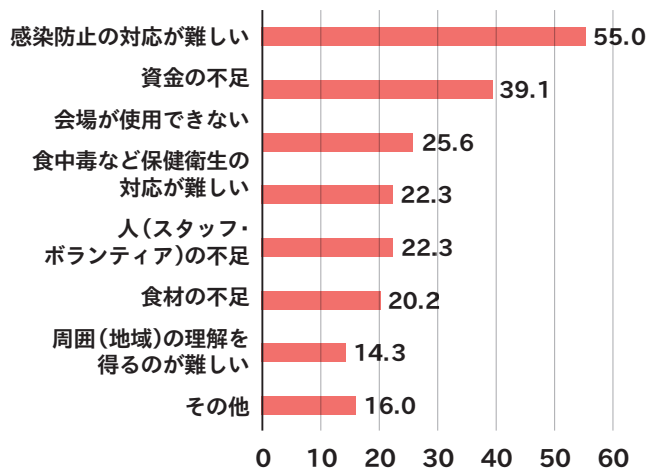


※その他は、「緊急事態宣言」

■ 第3回アンケート結果 9月現在 342件

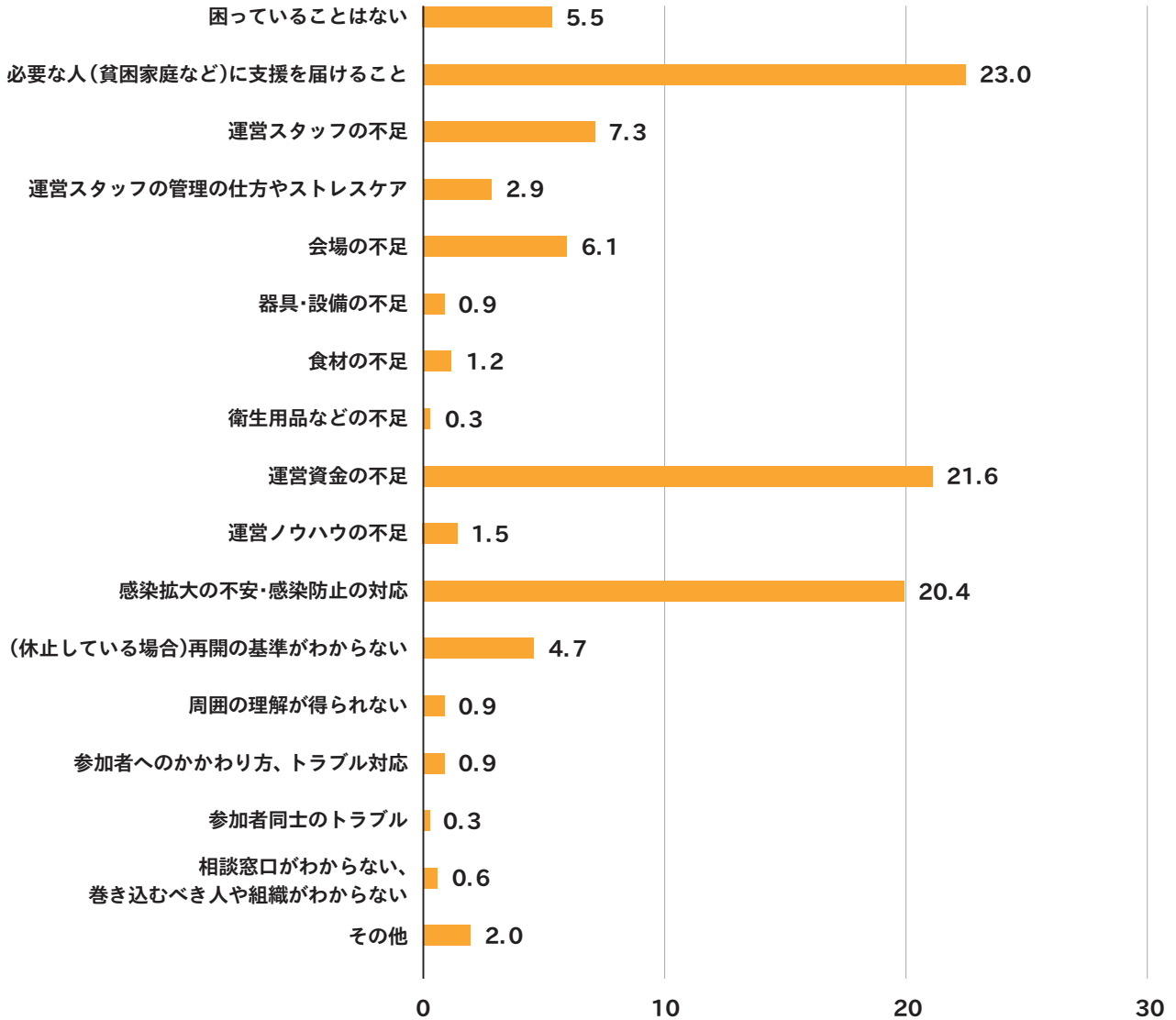


■ 第2回アンケート結果 6月現在 238件



6 こども食堂での困りごと(最も)

回答数: 343件 単位: %



アンケートからわかること

・6月、9月に実施したアンケートに続き、感染拡大の不安・感染防止対策の困りごとを感じているところが 56.0%と過半数以上。次いで必要な人(貧困家庭など)に支援を届けること 51.9%と過半数以上が困りごととして挙げている。

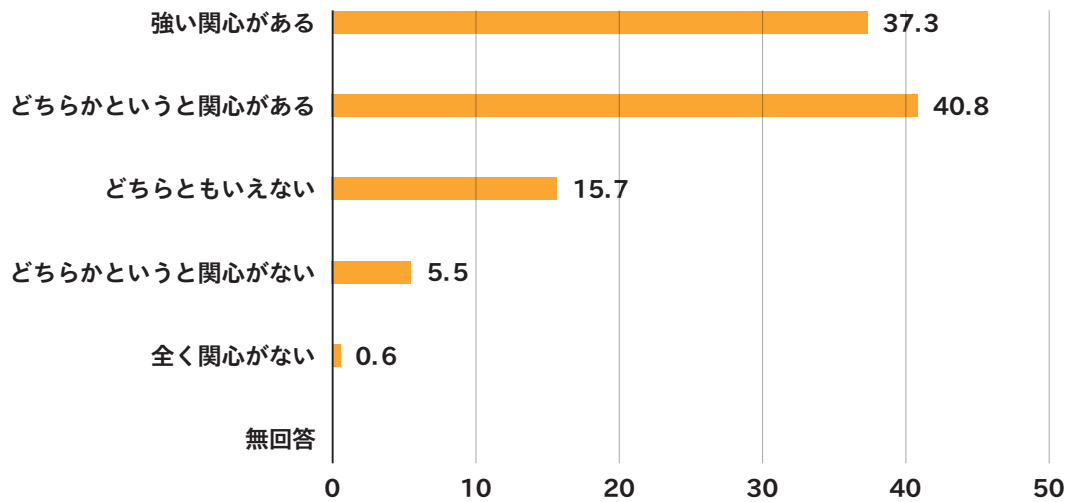
・今回のアンケートで最も困っていることを聴取した結果、必要な人(貧困家庭など)に支援を届けること 23.0%、運営資金の不足 21.6%、感染拡大の不安・感染防止の対応 20.4%の順で多い結果となった。

第2部

防災に関する
アンケート調査

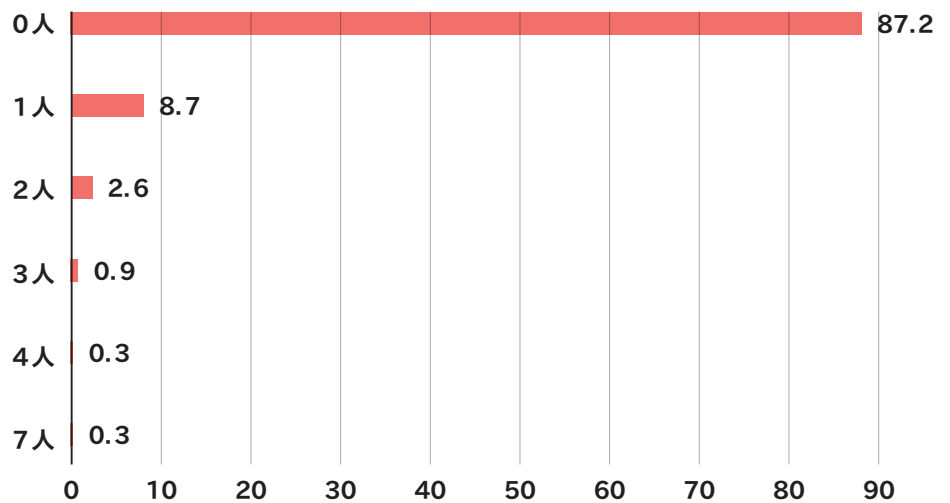
7 こども食堂の運営にあたり「防災」に関心があるか

回答数: 343件 単位: %



8 防災士の人数

回答数: 343件 単位: %



アンケートからわかること

・こども食堂の運営にあたり「防災」への関心に対し約8割の78.1%が関心有と回答。中でも強い関心があるという回答も37.3%と4割近い。

・一方で防災士の人数は0人が87.2%とほとんどの団体では防災士が不在の状態である。

第3部

あなたにとって こども食堂とは？ (テキストマイニング)

9 あなたにとってこども食堂とは？

こども食堂を運営している皆さんに「こども食堂とは？」という問いかけをしたところ、「居場所」「つながり」「温かい」というキーワードのスコアが高くなるという結果となりました。こども食堂は子どもの貧困対策と地域交流拠点の二本柱で運営されているところがほとんどですが、地域のあたたかいつながりのある居場所としての思いが詰まったところでもあることがわかります。

AIテキストマイニング結果

自由記述頂いた20,027文字(こども食堂、子ども食堂の文字は削除後のテキストを使用)をユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)で分析した結果です。

○文書5行要約(高重要度文書抽出結果)

子供だけでなく様々な世代の人が交流できる居場所。

運営側も利用者側も地域の居場所と感じています。

子どもだけでなくお年寄りとの多世代交流の場。

食事は、心を豊かにすると考えています。

定年退職後の、私にとっての生き甲斐になっています。

○単語出現頻度

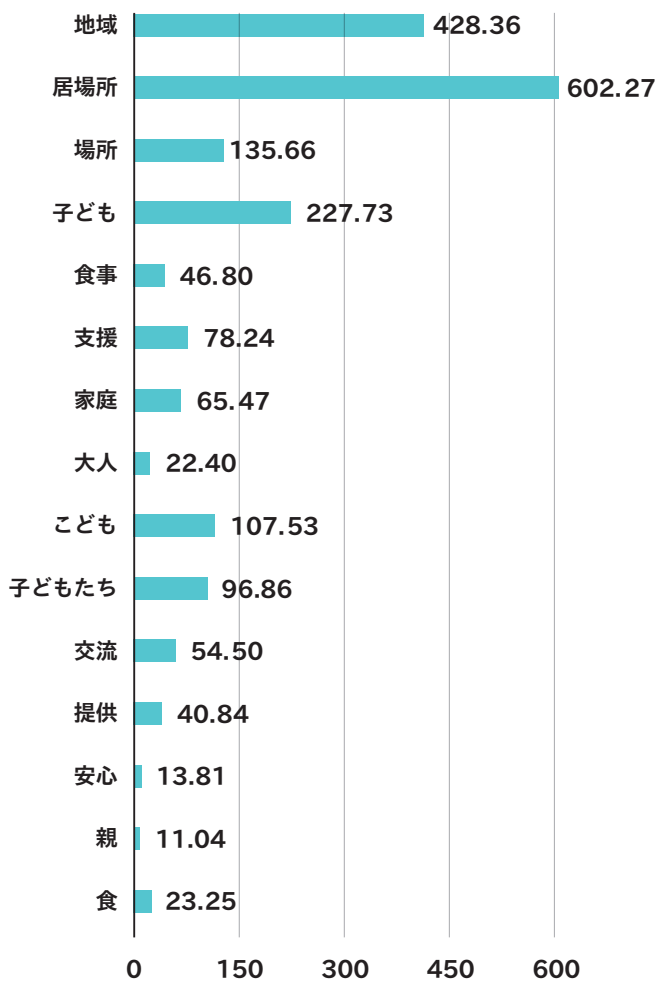
*スコアは、TF-IDF法という統計処理をした、その単語の「重要度」を表す値で、全文の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しています。

参考 URL <https://ja.wikipedia.org/wiki/Tf-idf>

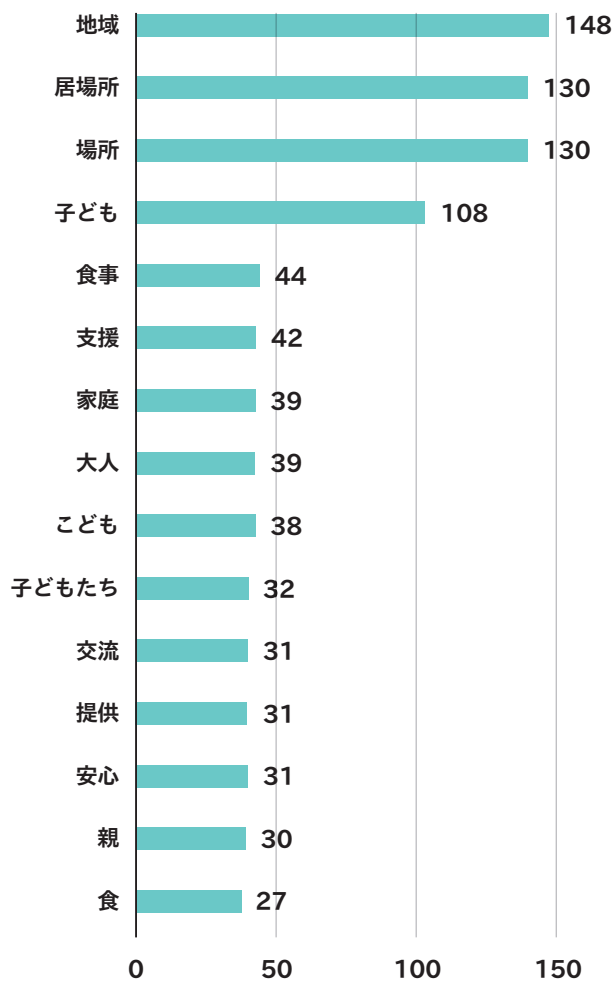
9 あなたにとって子ども食堂とは？

■ 名詞

スコア



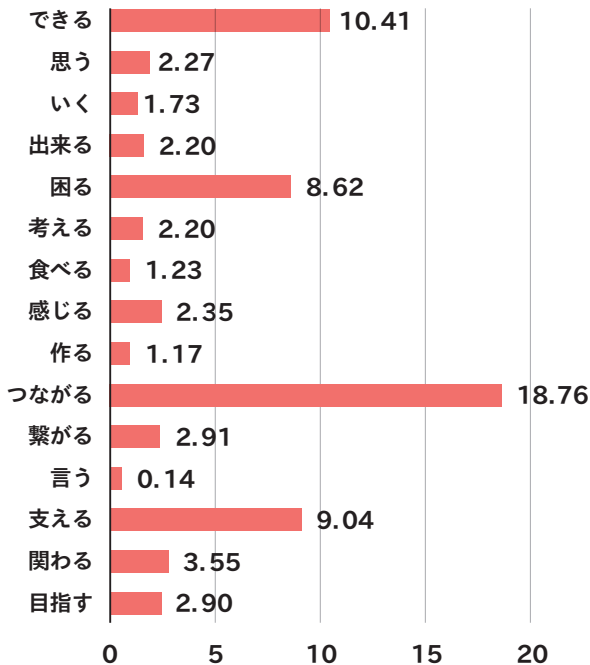
出現頻度



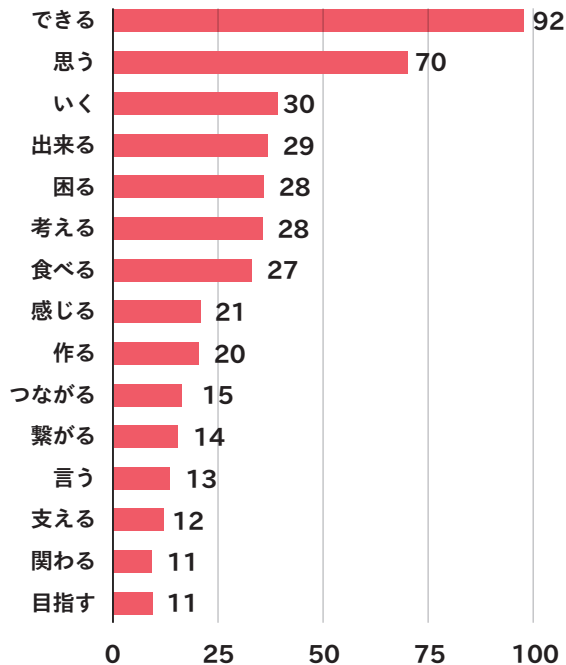
9 あなたにとってこども食堂とは？

動詞

スコア

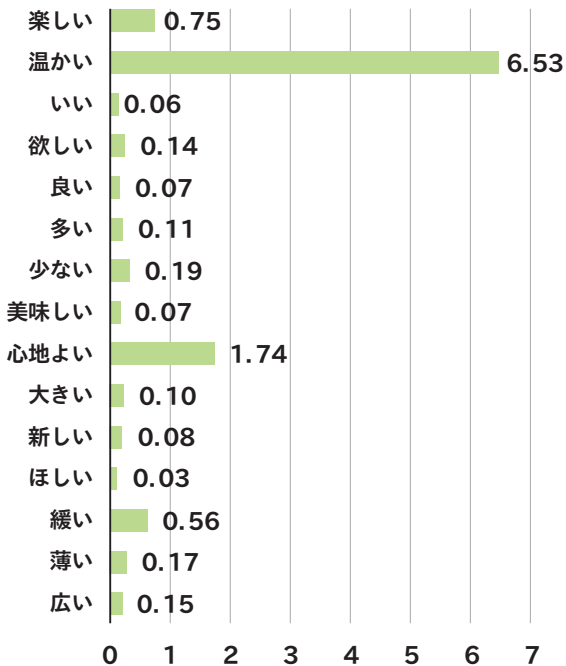


出現頻度

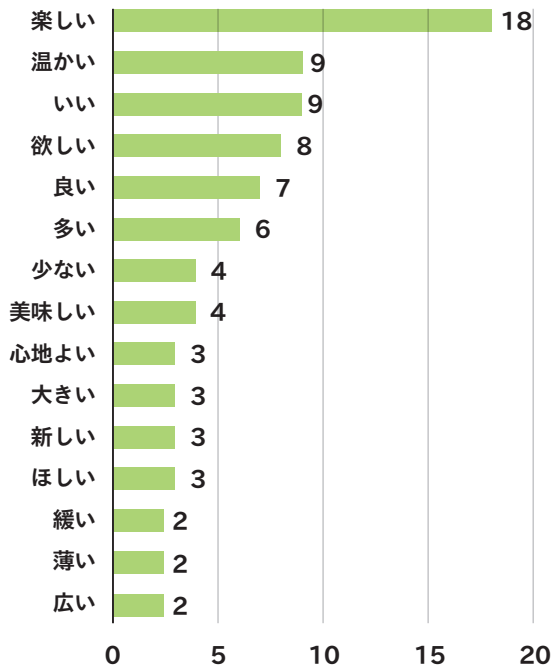


形容詞

スコア



出現頻度



第4部

活動に関する
困りごと
(自由記述)

10 困りごとの具体例 (自由筆記)

その1 感染対策

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、一部地域で緊急事態宣言が再度出される中で、再開時期の「予定が立たない」と答えた子ども食堂は、昨年9月よりも増え、過半数を超えました。自由記述にも、感染症対策の難しさが多数声として上がっています。感染症対策をしても拭えない不安感、感染が拡大していない地域でもいつ感染拡大するかわからず目処のたてずらさ。さらに、ボランティアの確保や運営スタッフの合意形成の難しさが、運営者の皆さんを悩ませています。

○100人を超える子ども食堂だったので、運営方法を大きく変更する必要があるため、また、感染者が多く身動きがとれない(兵庫県)

○11月に開催場所である福祉センターの調理や食事に関する基準が緩められ、再開できそうな時期があったが、ボランティアの中で再開に対して不安だという声が聞かれ結局再開できなかった。感染対策については個々で知識や感覚や理解が違い、なかなか同じ方向にもっていくのは難しい。ましてや絶対大丈夫という保証がない以上、開催は難しいと考えている。(兵庫県)

○いつから再開できるのか見通しが見つからないこと。テイクアウトでお弁当を配布しておりますが、作れる数に限界があり、すべての方に行き届いていないこと。フードパントリーも同時に行っており、配布する食材が不足していること。(滋賀県)

○子ども食堂を再開した時の感染防止マニュアルづくり(埼玉県)

○コロナウイルスの収束の見通しが立たない中で、今できることをやっていくしかない工夫をしているが、いつ拡大するかわからないため常に感染の危険と向き合っている状態が続いている。(新潟県)

○コロナに対してしっかり予防をすれば、大丈夫！の理解が出来ていなく。参加者の親からも参加を控えるような事もある(滋賀県)

○どのくらいコロナの状況が落ち着いたら再開できるのか?? 地域の周り? 市内が落ち着いたら??それとも県??(奈良県)

○ワクチン接種や治療薬の開発など、再開にあたっての安心材料がなかなか揃わない(兵庫県)

○感染予防に対してどこまでやったらいいかわからない。それなら開催しない方が良いのかも、と思う時もあるがこういう時期だからこそ人との関わりが必要だと思う。(群馬県)

10 困りごとの具体例

○緊急事態宣言が発出され、感染防止対策に、大変神経を使い、必要以上に、疲れています。(大阪府)

○緊急事態宣言が発令され、何を基準に安全だからと言って再開したらいいのかがわかりません。(ボランティアが特に学生が多いこともあり、クラスターなどが発生したら責任が取るのも難しいので)(東京都)

○周囲の人の covid19 に対する認識、対応などバラバラで対応に苦慮する。(滋賀県)

○食堂開催、弁当配布にしても、スタッフ同士が密になってしまう。人数を減らすと仕事が進まず大変。また高齢者のスタッフがコロナが心配で来れない。(長崎県)

その2 行政、学校、地域組織との連携等

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、一部地域で緊急事態宣言が再度出される中で、再開時期の「予定が立たない」と答えたことも食堂は、昨年9月よりも増え、過半数を超えました。自由記述にも、感染症対策の難しさが多数声として上がっています。感染症対策をしても拭えない不安感、感染が拡大していない地域でもいつ感染拡大するかわからず目処のたてずらさ。さらに、ボランティアの確保や運営スタッフの合意形成の難しさが、運営者の皆さんを悩ませています。

○ずっと言われていることですが、個人情報の壁が何とかならないか。(兵庫県)

○行政の協力が少ない。広報にも載せてもらえない。公民館が使えない。困窮者にも届けたいのに周知活動を独自で頑張るしかない現状。(群馬県)

○お困りの方の情報等も、名古屋市内は、社協によって対応が違い、子ども食堂と連携を組んでいるところもあれば、食堂のある区では、全く、連携がありません。けれど、連携をとっていくなら、ある程度の運営資金があるかと思うので、その辺りを行政が対応して頂けると良いなと思いますが、まずは、活動の継続をし、信頼関係を作っていくことが大切だと思っています。(愛知県)

○私たちNPOは行政・社協の持っている困窮家庭の情報を得られにくい。ただコツコツと続けることで行政の方々も少しずつ活動を分かってくれて繋いで頂けるのではないかと考えている。既に多少の繋がりあり。だからこそ例えテイクアウトでも子ども食堂を続けることが大事だと思う。(愛媛県)

○色々な人達に食べに来てもらいたい、その中で困っている人を見つけられればと思うが、地域柄か子ども食堂＝貧困のイメージが大きいので、子供だけの参加が少ない。校区内の学校や他の連携があればと思う。(兵庫県)

10 困りごとの具体例

○地域の学校が困っている家庭へのアプローチに消極的である(兵庫県)

○貧困家庭に届けるために、学校、行政と連携したいが、それぞれが個人情報保護をうたうが、弱い者には届いていない。窓口になるべく、協力を依頼するも壁が厚く、我々に連絡もしくは、直接探してきてくれた方にしか届かない。もっと、教育現場や行政を巻き込んで、窓口になって大変な仕事は請け負ってもいいので、困ってる方々を助けたい。(埼玉県)

○貧困家庭や困っている子供と繋がりたいが本当に困っている子はなかなか入ってこれない 母子家庭支援もしているが、個人的に知っている人に繋がっている状態、学校もプライバシー保護からなかなか腰を上げてくれない 虐待も子供の話で何となくは分かっているが親にコンタクトが取れない(大阪府)

○本当に困っている人が、困っていることを伝える事ができ、援助が受けやすくするにはどうしたら良いか？それが、自然な形、皆んなが平等に受ける中の1人になるには？どうしたら良いか？(長野県)

その3 ボランティア、スタッフの確保など

重篤化のリスクを考え高齢者のボランティア活動がしにくくなっている状況や、食事を振る舞うコロナ前の活動からお弁当配布等へと活動内容を変更することによるスタッフの負担の増大など、ボランティア等スタッフの確保の難しさが寄せられました。また感染症対策を施し、活動形態を変えて行うことで負担は増えるが、スタッフの人件費が確保できない現状も、コロナで大変な子どもや家庭が見えてきて、活動をやめるわけにはいかないと思っている中で、運営者の皆さんを悩ませています。

○スタッフが高齢化して平均年齢65歳以上 コロナ感染で関わりを控えざるを得ない。(新潟県)

○スタッフの確保について、調理スタッフ、遊びスタッフと役割を設けています。スタッフの高齢化やライフスタイルの変化によりお辞めになる方がいる一方で、新たな若手スタッフが見つかりづらい状況です。(滋賀県)

○スタッフの不足 60歳以上のメンバーにお休みしてもらっているため、60歳未満のスタッフが足りない場合がある。(東京都)

○テイクアウト弁当にしたことで利用される食数は増えたのですが、そのことでスタッフの負担が増えて不満が生じています。感染拡大の状況で、本来の形とは変わってきたこともスタッフの中では納得できない方もいて、意思統一が難しくなっています。ただ、新しく参加してくださる方もいるので、当面は今のテイクアウト弁当の支援を続けたいとは思っています。(埼玉県)

10 困りごとの具体例

- 一緒にやる仲間が不足。相談相手がいない。常に一人で考えているので、活動が広がらない。(千葉県)
- 人件費を計上できる助成金がほとんどない、安定して人件費を計上できないため、全てボランティアに頼っていることで、他の仕事との両立が必須となり、日中の活動が制限される。(大阪府)
- 人材(スタッフ)数が少ない。会場(横浜市の施設)での成約が多く妨げとなっている(神奈川県)
- 定期的に活動できる人材の不足(群馬県)
- 貧困家庭に食料をまわす仕組みができつつあるが、大勢なのでスタッフが足りない。(和歌山県)

その4 会場の不足

コロナ前は「密」だったこども食堂。ウィズコロナでは、公民館などが使えなくなったところや公民館が使えても「食」の提供ができなくなったところ、さらに三密回避や食材を置いておく場所の確保のために広い会場が必要となったことによる活動拠点確保の難しさの声があります。これを機に思い切って常設の場所を確保しようと思っているところも、固定費がかかりその資金繰りもさらに大きな負担としてのしかかってしまうという現状があります。

- これまで使用させてもらっていた会場が閉鎖されているため、新しい会場を探していますが、古民家などを借りるとなると改修したり備品をそろえるための費用かなり必要になります。(兵庫県)
- 会場が狭隘なため、現状で精一杯。さらに必要とする方に利用してもらうには会場を変えていく必要がある。しかし、それは簡単ではない。(和歌山県)
- 開催場所が閉鎖しているため、代替の場所で開催しているが、使用料金が高いため今はまだどうにかできているが、継続するためには資金が不足してくる。(熊本県)
- 活動を止めずにすむ、自分達の拠点がほしい。公的施設が休館になると、食堂の開催や食材の配布すらできない。(茨城県)
- 拠点となる場所(空き家)を借りたい(三重県)
- 公民館を使って開催しているが、市からの委託者が嫌嫌やっているため、協力を得づらい(千葉県)

10 困りごとの具体例

○今までコミセンなどの調理室などをお借りして開催していたが調理する場所がなくなり活動の再開が手探り状態。(山形県)

○場所が狭い(滋賀県)

○食品を保管する場所。冷蔵庫は、手に入ったが、パントリー用の食品や資材をほかんしておくスペースがたらない。設備の整った倉庫が、必要。(福岡県)

その5 資金等の不足

食材等の配布を行うことも食堂は、特に資金負担が大きくなり、持ち出しもかさんでいると、運営者から切実な声が寄せられています。さらに、感染症対策による出費、食材の保管のための冷蔵庫・冷凍庫などの備品費用の負担も運営者を苦しめています。

アンケートを実施した2月は、2021年度の活動計画を立てる時期でもあり、来年度の助成金や委託金等の目処がたっていないことによる不安感も高まっていました。

コロナで活動が思うようにできず、活動ができていないことで寄付なども呼びかけが難しく、でも、固定費はかかってくることによる悲鳴も上がっています。

○お肉や魚などの生鮮食品等の寄贈がなく、スタッフが少しずつお金を出していますが、たえず資金不足です。(和歌山県)

○お弁当形式だと通常よりも食材費他がかさむ。またいただく食材も減っているので購入費がかなり増えてきた(兵庫県)

○子ども食堂だけでなく、フードパントリーを行うと費用が嵩み、資金不足となります。助成金だよりなので、自走できる方法が未だ確定できておりません。(東京都)

○コロナ禍で新たに厨房を借り、そこに冷蔵庫を購入したいが、助成金は用途に制限があるものが多く、未だ購入できていない。(熊本県)

10 困りごとの具体例

○コロナ禍の影響で資金源だったフリーマーケットの中止が相次ぎ収入を失いました。さらにコロナ禍による飲食イベントの自粛で町内会館を借りられなくなり、空き家を賃貸することになりました。家賃の支払いに困っています。(北海道)

○パントリーは食堂運営より資金が必要で、長期になると手持ち資金では足りなくなることが明白です。昨年4月からパントリーをはじめ、1年以内に食堂を再開できると予定していましたが、現在は期限を切らずにパントリーに専念することを決めています。パントリーにをはじめてから、参加者が多くなり、地域からの期待も高まっています。どうにかその要望に答えたいと思いますが、どこまで続けられるか不透明です。(新潟県)

○運搬費、光熱費が足りないし、補助金は食材費しか出ないので、全て自腹(兵庫県)

○家賃・水光熱費等の固定費がポディーブローのように効いてくる。(栃木県)

○家賃です。住宅供給公社の物件ですが、減免などの対策はないです。夜間営業でもないのに、補助金もないです(愛知県)

○会場施設の光熱水費、食品調達費(提供されない食材等の購入)、組織運営費、PR費など(広島県)

○感染防止のため、消毒やシート設置に時間がかかり、その分レンタル料がかかる。(福岡県)

○空き家で夕食、入浴支援をしている。光熱費は、自己負担で運営しています(滋賀県)

○現在、弁当を業者より購入し、小・中学生に無料で配布しております。本来の調理してその場で会食の場合とでは、2倍の経費がかかります。資金が不足してます。(長崎県)

○子供食堂は150食でも、2万円ほどの赤字で済む。フードパントリーは、50家庭で5万円ほどの出費いつまで続くか分からない。(東京都)

○資金がどうしても助成金頼みになってしまうので、毎月申請と報告の作業が大変です。(埼玉県)

○資金の不足・・・賃料や光熱費・通信費など、子ども食堂を安定して維持するための最も基本的な資金(福島県)

○助成金と寄付金、ご提供の食材で運営しているため、2021年度からのお弁当の作成配布が困難な状況です。(大阪府)

○食材の不足の詳細は、パントリーにして配布する食材と、調理して配食(弁当)にする食材の種類が増えるため、支援者から頂ける食材では両方を充足させられない。また、食材よりも消耗品(弁当箱)などの費用が掛かりすぎている。(沖縄県)

○食堂に來れない子ども達の送迎車。(茨城県)

10 困りごとの具体例

○生活保護家庭や子どもの人数が多いひとり親家庭には無料で食事を提供しているので、提供家庭数が増えつつあり、配達も始めたため継続運営資金がぎりぎりなため。(岩手県)

○全くの個人で開催しているので、毎月の光熱暖房費は、休んでいても、請求が来ます。休んでいますと支援者にお知らせしますので、その間は支援をして下さいとは言えず。掃除に通う事だけになります。(長崎県)

○他の団体の建物を月一回で借りて使用しているので、大きい調理道具がなく、毎回200食の弁当を作るのに、釜や鍋など揃えたいが賜金に余裕がない。また、最近は沢山の支援品を頂くが保管場所にも困っている。気軽に使える自分達の事務所がほしいが、現在では運営していく、資金の余裕がない。(熊本県)

○第一波の時は寄付が期待を上回るかたちで寄せられ、無料のお弁当を支持されてるんだとの気持ちで頑張っ
てしまい。第2波第三波と来て資金が底をつきかけてます(大阪府)

○NPO 法人になる道を選び、4月には設立しますが、家賃や運営費などの心配をしないで各種の支援活動
ができる道はないのかと模索しています。家賃、運営費などの心配をしながらの活動は不安です。(千葉県)

○特にイベント用の食材費用やイベント商品の資金不足 会場費など電気代などいろいろな経費を大家さん
のご行為に甘えすぎているので、長期的に続けるうえではいくらもお支払いをしたいが、現状できない(奈良県)

その6 活動内容、活動ノウハウ

みんなで集まってご飯を食べる活動から、フードパントリー等に活動が変わり、かさむ出費
のための助成金申請や、気になる子や家庭への個別支援等の対応など、運営をしていく中
での困りごとの声も寄せられました。活動の持続性への不安感も高まっています。

○助成金の申請手続き アドバイスしていただきたいのですが、元々苦手分野でなかなか作業が進みません。(宮城県)

○子ども食堂開始より弁当配布になり本来の活動の経験不足(新潟県)

○ノウハウと資金一助成金の範囲内で無理なく活動していますが、助成金が後払いが多くてやり繰りが難しい
こと。立て替えなどで人間関係を難しくしても困る。クラウドファンディングなど元気が出る方法を学びたい。
(福井県)

○みんなでご飯を食べる事が難しく、どのようなやり方がいいか 例えば学習支援や居場所だけでいいのか(東
京都)

10 困りごとの具体例

- 会食で参加していた子どもが、配食では参加しないこと。(広島県)
- 助成金の申請に時間がかかりたいへんです。ないと活動が困難になります。(福井県)
- 直接的な支援ができない。(滋賀県)
- 毎年助成の申請をしなくてはならない。採択される保証がない。(滋賀県)
- スタッフの人材育成 家庭(親)との関係を築いて、話相手になる、傾聴する、時には注意やアドバイスができる、相談しやすい、信頼される安心できる相手になっていくには、スタッフの高いスキルや人柄が必要とされる、人材確保が難しい。ボランティアの人にどこまで任せられるか。ボランティアや、スタッフの育成プログラムがほしい。(徳島県)
- 無償ボランティアで運営しているため、核となるボランティアが疲弊してきた。感染拡大予防で気軽にミーティングも出来ず、ボランティア間のコミュニケーション不足でぎくしゃくしている部分もある。活動持続性にとっても不安を感じている。(茨城県)

本アンケートは、「ありがとう」キャンペーンの一環で実施した

『子どもたちに、あたたかいつながりを。
「こども食堂」の支援を通じて、子どもの育ちを支えたい。』

クラウドファンディングを通じたご支援により実施いたしました。
ご支援いただきました皆様、ありがとうございました。

むすびえでは、本アンケート結果を元に、こども食堂支援企画を立ち上げて参ります。
引き続き、こども食堂へのご理解、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。